

慈明院寺報九月号

残暑厳しいこの頃 九月・秋のお彼岸が近くなつてきました。猛暑続きたつた

葉見ず、花見ず



この秋の彼岸には、彼岸花の燃えるような赤色で、田の畦道が彩られる。
彼岸花は別名「曼珠沙華」とも呼ばれ、仏の功德をあらわす伝説上の赤い華のこととき。ある時お釈迦様が説法を始めると、天がその説法のありがたさに感じ入り甘露の雨を降らせた。すると地上に真つ赤な華が咲き乱れ、見る者の固く閉ざされた心を柔軟にしたという。この故事から彼岸花は「柔軟華」とも漢訳されるそうだ。

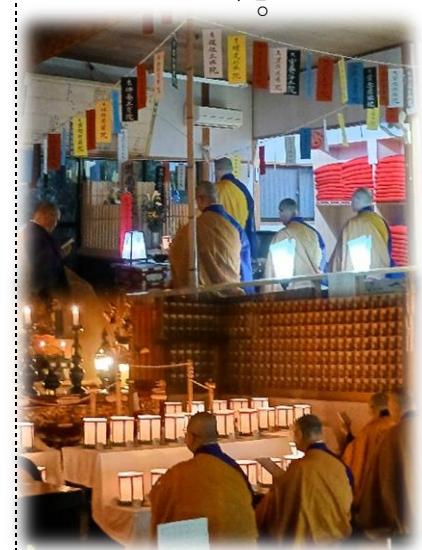
彼岸花には約千の別名があり、そのひとつが「葉見ず、花見ず」である。
おも
くき
はみ
はなみ
彼岸花の花は一週間ほどで茎とともに枯れてしまう。その後、球根から葉を伸ばし、冬の間に葉を茂らせる。茂らせた葉で、春から栄養を球根に蓄えていく。しかし、植物が元気いっぱいに夏には、彼岸花の葉は枯れてしまう。そして秋のお彼岸に一気に茎を伸ばして、一週間だけの花を咲かせるのである。このサイクルから、「葉見ず、花見ず」という呼び名ができた。また葉は花を想い、花は葉を想うという意味で「相思花」という異名もある。

もうひとつこの花には不思議な事がある。彼岸花は鱗茎と呼ばれる地下茎で繁殖している。つまり花を咲かせて蜜で昆虫を集め、受粉作用を助けてもらう必要がないのである。しかし、花を咲かせ蜜を作る。仏教では無償の施しを「布施」という。花蜜はまさに彼岸花の布施であり、お彼岸の花にふさわしいと思う。大雨や猛暑に負けず、今年もがんばれ彼岸花！

住職の独り言

来る。令和七年九月二十三日（火曜日）秋分の日
午前十一時より
どなたでも塔婆のお申し込み、当日のご参拝は出来ます。案内状をご参照
頂き、宜しければお参り下さいませ。（昼食、大黒饅頭をお接待致します）

秋季彼岸・塔婆供養法会のご案内（別紙参照）



令和七年七月二十六日 【土】（お施餓鬼）
とうろうくよう ど

お盆まいりで各檀家様より、慈明院開山五十周年の志納金をご寄付頂きました。お陰様で営繕事業の目標金額を集めさせて頂く事ができました。紙面を借りて御礼申し上げます。十月より大師堂の営繕工事を始めます。

令和七年十月二日（木）福岡の古刹・惠光院（福岡市東区馬出五丁目三六一
三五）において、お釈迦様の涅槃図の絵解きが行われます。時間は十時半と
十三時からです。惠光院秘蔵の文化財・大涅槃図が特別公開されて、その
涅槃図を解説しながら、御詠歌や読経が合わせて披露されます。福岡の真言宗
寺院の檀信徒研修会です。観覧無料、興味のある方は住職までご連絡下さい。

慈明院（ミヨウイン）
〒八一一一三一 福岡市早良区大字西二三四一—〇
TEL（〇九二）八〇四一四五七〇 FAX（〇九二）八〇四一四六〇五

TEL
(〇九二) 八〇四一四五七〇

住職・吉住大慈

住職
合掌